

### ヤマト絵日記 その6



### 西城で空き家セミナー&相談会初開催！ 地域マネージャー活躍中

1月20日(土)に、あきやネット庄原の飯田先生と宮崎先生をお招きし、空き家セミナー&相談会を開催致しました！  
セミナーに11名、相談会に3名と参加者は少なかったですが、質問も多く、今後もやって欲しいという声もいただきました。



セミナーでは、空き家を放置するとどうなるのか。また、相続登記に関する法律の話、実際にあきやネット庄原がどのようにして空き家問題を解決しているのかをお話いただきました。  
参加者からは「この機会に法律や空き家の解決策を実例に基づき知れたのでとても分かりやすかった」という声もいただきました。  
今後も、あきやネット庄原と協力し西城町の空き家に対する解決の一助となる活動を行っていきます！



西城みらいラボでの移住定住に関する活動や西城自治振興区でも空き家対策や移住定住事業に引き続き取り組んでいきます！！  
空き家に関する相談は、是非西城みらいラボか西城自治振興区へ！！  
記：清水地域マネージャー

西城自治振興区だより 2024.2.20(火) Vol.140

## 西城まちづくり便

☎729-5722 広島県庄原市西城町大佐734  
TEL/FAX:0824-82-2175  
<https://sites.google.com/view/saijoutyoukankoukyoukai>

ヒバゴンのまち 自然豊かな広島県庄原市西城町の様々な情報をお届けします♪

## 西城町

西城町観光協会とタイアップした情報サイトです  
地域の情報などを発信します \*こちらからお入りください

### おだやかな時間が流れる麻田サロン

麻田サロンは毎月第一、第三金曜日の午後から実施されています。始まりは2004(H16)年8月から。秋津さん達が郷力洋装店の部屋をお借りして、五町自治会で月2回の水曜日に始まりました。その後、麻田さんのお宅で行うようになり、今回で62回を数えます。現在の会長は荒川さん。会員は明神町の方となり、13名で続けています。



サロンはリハビリ体操から始まります。カセットテープから流れる音楽と掛け声に合わせて、椅子に座ったまま身体を動かします。動かすところを間違えて大笑い。ほのぼのとしたおだやかな時間が流れます。続いて誤嚥(ごえん)を防ぐパタカラ体操。「パ」「タ」「カ」「ラ」発音する文章を声を出してみんなで唱和します。何種類もある例文をすべて暗記する方もいます。手首の運動を終えるころ小一時間が過ぎていました。

サロンの終わりは午後4時ですが、ついおしゃべりに花が咲き、いつも終わりは午後5時頃になります。

一年で一番寒い時期に、こころ暖かな時間と場所「麻田サロン」に出会うことができました。こんなサロンが西城にたくさんできればと心から思いました。

1月26日(金)午後から、明神町の麻田邸で行われているサロンにお伺いしました。



午後1時から始まりますが、定刻に全員は集まりません。つい忘れていたりする人もいます。誰かが迎えに行きます。歩いて行ける近さが明神町の良いところです。



計算トレーニング、漢字トレーニング、数独(ナンプレ)、7つのまちがいがしなど。ピアノ演奏で歌を歌ったり。ベルの演奏をしたりと盛りだくさんです。途中お茶の時間を挟みます。いつも笑いが絶えないとの事でした。

### 大屋今櫛会 新春講演会

明けましておめでとうございます。  
新年早々から、能登半島地震・羽田空港の日航機事故と暗いニュースがある中で、大屋今櫛会では、1月8日(月・祝)成人の日、4年振りに新春講演会を開催致しました。



西城市民病院長、郷力先生の「地域包括ケア・医療」と題して、在宅介護の重要性、訪問介護・看護の役割、また、認知症等についてわかりやすく説明されて、皆さん熱心に聞かれ、最後は、質疑応答等もありました。

第2部として、13名のフラダンスの華やかな衣装と踊りに大変喜ばれました。

最後は、西城神楽愛好会14名による、「神舞」「猿田彦」「おろち」「恵比寿」と素晴らしい舞で、最後は「大黒舞」で、餅まきをして大いに盛り上がった一日でした。

大屋今櫛会 会長 岡田 隆博

### こども会で「とんど焼き」の開催

1月14日(日)に五日市公盛会自治会こども会で「とんど焼き」をおこないました。子ども会参加者は総勢19名。昔にくらべ子供達の数は少なくなりましたが、風邪をひかない、病気をしないといっってみんなで火にあたりました。

点火して燃え上がったやぐらに子どもたちは大はしゃぎ。赤い火に照らされ舞い上がる灰を「雪みた〜い」と追いかけたり、竹のはじける音に驚いたり正月のお餅を焼いて六個も食べた子もいて楽しい一日となりました。

五日市公盛会自治会こども会事務局 樋口



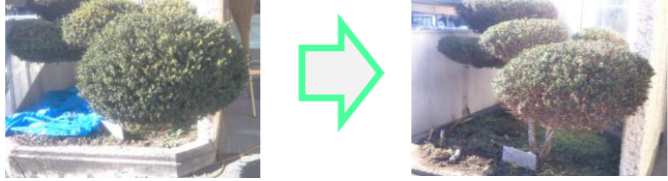
### 振興区ロビーLIVE 2月23日(金・祝)14時~

西城自治振興Cオープンスペースにて開催します!!  
入場無料、アコースティック演奏をお楽しみください。



### サッパリしました！

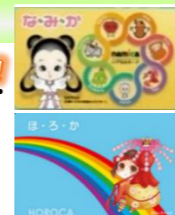
西城自治振興センターの玄関先にある、マメツゲの植木が伸び放題でした。ある日、西城在住の方(匿名)が見かねて、剪定していただきました。スイセンの芽も喜んでます。いろいろな方に助けていただいて、運営できています。



ありがとうございました！

### なみか・ほろかカードで1ポイント

西城自治振興センターで「なみかカード・ほろかカード」で1ポイント付与されます。  
(1日1回限り、令和6(2024)年3月31日まで)



◆勉強会◆

どうする どうなる芸備線～

藻谷浩介さんと考える鉄道を生かしたまちづくり

1月19日(金)ウイル西城2階ホールで講師に藻谷浩介さん(株式会社日本総合研究所主席研究員)を迎え、「芸備線 庄原一新見間の存在意義を見つめ直す」勉強会が開催されました。まずは、小学校3年生の頃、旧庄原市内や西城町にきた時の思い出話から始まりました。

講話は住民1人当たりの生活保護費は市によってどのくらい違うのか?から。断トツで多い市は大阪市で118,200円、次が東京23区平均56,200円、広島市40,000円、岡山市33,800円、庄原市は11,600円。生活保護受給率は高齢者が高い。都会の方が高齢者がお金に不自由している。田舎だと、お金以外の資本にも頼れるので、高齢者が生活に困りにくい。つまり、高齢者が安心して暮らせる田舎。大事にしないのは日本全体の損失であると。

資本に投資して循環再生させると利子が付く。お金に限定された話ではなく、人的資本:ひと、里山資本:もの(農地、山林、川海)などがある。人口を林野や湖沼を除いた面積で割る可住地人口密度で比べると、大都市圏より田舎はとにかく人が少ない。日本の大都市圏は世界的に見れば異常なレベルの人口”過密”地。また、日本の地方の県は人口”過密”地帯。オランダが島根県と同じレベル。ドイツやフランス、イギリスはもっと低い。過疎は自然資本豊かな”適疎”。世界で比べると西城は人口が多い。西城はコンビニもスーパーもある。良いところで大切にされなければいけないとも。



さて、本題の芸備線です。最初に問題提起がありました。赤字の鉄道は税金がかかっている。廃止にすべき黒字線だけ残せばよいのでは。県内で黒字なのはおそらく新幹線と広電だけ、他は赤字なので廃止にすべきではないか?例えば、北海道はJR新幹線も含め全線赤字なので廃止にすべきではないか?JR札幌駅は1日20万人ぐらい利用する。その人達がバス、タクシー、自家用車を利用すれば町中が車でうまって動きがとれなくなる。黒字か赤字かという判断基準がおかしいということ気付くだろうか?

道路も赤字。県や国が手入れしないと走れなくなる。鉄道だけが赤字じゃない。港も空港も赤字だ。鉄道だけが赤字なら廃止という議論はおかしい。現在は道路に使われているガソリン税を、環境にやさしい鉄道に使うべきだ。JRなど民間が列車を運行し、線路など設備を税金で維持管理する上下分離方式に変えるべきだと。先進国では日本だけが鉄道に国費を投入していない。

日本の鉄道のあり方を変えて、国も含めて上下分離方式で残していく。そういう時代の流れを変えた庄原になってみませんか?政治を動かして、「国もお金を入れてくれ」という運動を、ここから起こさないといけない!と話されていました。



平子自治会新春研修会

1月28日(日)に平子自治会新春研修会を開催しました。

4年ぶりの開催でしたが当日は33名もの方にご参加いただき、地域の変わらぬ繋がりを感ずることができました。

研修会では、庄原市帝釈峡博物展示施設「時悠館」の稲村秀介学芸員から、「平子の歴史を語る会」と題して縄文時代から現代までの平子の歴史をご講演いただきました。



平子の由来から始まり、縄文時代の石器の出土や鉄などの鉱山の存在、寺社仏閣の成り立ちといった歴史の流れと、それらを地域の宝として、現在まで受け継いできたことの素晴らしさを学ぶことができました。

また、講演後は一緒にお弁当をいただき、久しぶりの親睦を深める事ができた、非常に有意義な会となりました。

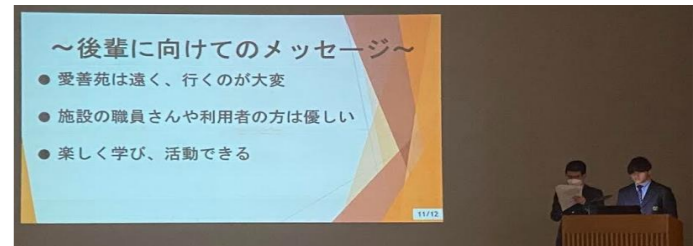
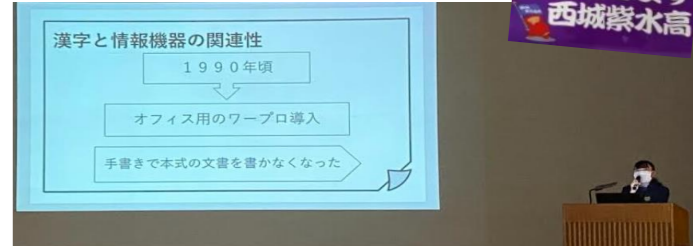


西城紫水高等学校学習成果報告会

各学年で総合的な探究の時間でグループ、個人でテーマを決めて取り組んだことや3年生の地域貢献活動講座の発表がありました。1学年はグループで取り組んだ「庄原の歴史について知る」「ドローンの活用方法の提案」、2学年はグループで取り組んだ「西城町の商業施設をよりよく活用するためには」「芸備線の利便性を向上させるためには」「修学旅行の報告」、3学年は個人で取り組んだ「漢字を効率よく覚える方法」「安楽死は合法にすべきか」と地域貢献活動講座活動報告及び具体的な講座の報告として「西城保育所」「愛善苑」「西城町観光協会」がありました。



令和6年1月19日(金)、ウイル西城2階ホールで令和5年度西城紫水高等学校学習成果報告会が開催されました。



全校生徒約60名と地域住民約20名、来賓5名が生徒の報告会に参加しました。私は初めて報告会に参加しましたが、生徒の発表が西城町の活性化をテーマにしたものが多くあり、高校生の視点から西城の良さを生かす方策をアンケートやインターネットの情報から分析するなど、なるほどと感心する報告会でした。特にドローンの活用や芸備線の利便性の向上に関するテーマは西城自治振興区の活動との関連性もあり、参考になりました。また、3学年の発表はプレゼンテーションのスキルやテーマに対するアプローチの質が高く、西城紫水高等学校の3年間で、一人ひとりの生徒が大きく成長しているんだと感銘を受けました。もっと多くの町民の方に観てもらえたらと感じる報告会でした。

文責 副会長 吉浪謙三

「大佐村ふれあいの里」の紹介

昨年『庄原市地域ケア推進会議 地域部会』に参加してきました。コロナ禍で集まりの場が中止になったり、延期された所が再開できていないと、危機感がありました。

人のつながりが希薄になったことで高齢者の孤独・フレイル・認知症の進行なども問題になり、集まりの場の継続、支援とつながりについての提言につながられました。

大佐村自治会では、1999(平成11)年11月4日「第1回大佐村ふれあいの里」が開催されました。コロナ禍で中止した事もありましたが、最近では令和6年1月14日に第125回「大佐ふれあいの里」を行いました。参加者34名、ビンゴゲーム(プレゼント付き)お昼はお弁当に、同日親睦会主催のどんど祭りで豚汁をいただきました。

「大佐村ふれあいの里」は、年6回行いますが、皆さん農業は現役なので、農繁期は外します。

世話人の仕事の中でも、

- ①チラシをコピーし、老人クラブの会長さんに届けるスタッフ
- ②老人クラブ会長さん→地区役員に配布→地区にチラシ配布、参加者報告
- ③参加者集約は、スタッフが担当します。

行事内容もスタッフ、老人クラブと相談しながら行います。役割分担することも、世話人の負担軽減になっています。集まりの場の運営には、課題はありますが何人からでも始められます。

色々な工夫をしながら、集まることから始めて欲しいと思います。

「大佐村ふれあいの里」代表 坂本 節子

